

【果樹】の【降灰】対策について

<通年>

農業経営支援課

- ① 発芽～新梢伸長期の降灰は、新梢の生育や花器の生育に影響を与えるとともに、受粉を阻害する恐れがあるので速やかに除去する。
- ② 新葉緑化期以降の葉への火山灰の付着は、光合成を阻害し、果実の糖度低下や枝の充実不足による翌年の花芽分化を阻害する上、火山灰の性質によっては、葉や果実表面にヤケの症状を発生させることもあるので、袋かけを実施する果実については、できるだけ早く作業を行い、果実への直接の降灰を回避する。
また、葉や果実等の樹体に付着した灰は早めに除去する。
- ③ 付着した火山灰は、ブローヤーやスピードスプレーヤーの高圧送風により払い落とすが、新梢や蕾などは、折れたり落蕾する恐れがあるので注意して作業を行う。
灰を除去した後は、スピードスプレーヤーや動力噴霧器、スプリンクラーを利用して十分な水量で洗い流す。
- ④ 降灰した果実の出荷に際しては、細かな灰が果梗部等に残っていることが多いので、丁寧に除去した上で出荷するが、過度の洗浄で表面に傷をつけ、腐敗を助長しないように注意する。
(柔らかなハケを使用する場合もある)
- ⑤ 降灰に伴って、急激な落葉が見られた場合は、カルシウム塗布剤等で樹体の日焼け防止を行う。一部の落葉等の樹勢低下が見られる場合は、葉面散布等により樹勢の回復に努める。また、樹勢の低下による病害虫の発生増加や薬害発生に留意し、的確な防除に努めるとともに、樹勢低下樹については夏季の剪定は行わず、冬季の剪定も軽度にとどめる。
- ⑥ 降灰が厚く積もった場合には、土壤の化学性を調査した上で、中耕や土壤改良資材等の施用を行う。